

vol.606

vol.606 Love & Smile



JCI 

公益社団法人郡山青年会議所2022年度スローガン

Just keep going!

～前進あるのみ！～

自ら行動しよう、愛と笑顔が溢れる郡山の未来のために

私たちの運動・活動は微力かもしませんが決して無力ではありません。私たちが蒔いた種はいつかこのまちで大輪の花を咲かせる時がきつと来ます。たとえ芽が出ず枯れてしまつたとしても、そこに気づきと学びという根が残る限り必ず芽を出す時が来るのでした。

アフターコロナという急速に変化する時代のなかで、先輩方が紡いでこられた郡山青年会議所の歴史と伝統、そして変革の能動者としての志を守り続けるためには、私たちも絶え間なく変化していく他ありません。”Challenge a new era, and you will change the future.”新

私が二〇一三年に郡山青年会議所に入会してから十年が経ちました。大学、社会人と東京で過ごし実家の稼業を手伝うために郡山へと帰ってきた十年前の私は、郡山青年会議所のOBであった父の薦めもあり、人脉作りのため郡山青年会議所の門を叩きました。入会当初は慣れないJC運動・活動に右往左往するばかりで、「まちのため、子どもたちの未来のため」と奔走する先輩方や同期メンバーをはじめ、志高く目標をもつて活動する多くのメンバーを横目に見ながら思うように運動・活動ができない時期も多くありました。そのたびに先輩方や同期のメンバーが私に手を差し伸べて引き上げてくれて何とか運動・活動に戻つてこられた十年間の日々でした。そんな十年間を過ごすうちに、JCがまちや未来を変えることはできないと思っていた私も、志を同じくする仲間とならぶることができると考えられるようになりました。

A black and white head-and-shoulders portrait of Dr. Kuniaki Matsubara. He is a middle-aged man with dark hair, wearing glasses, a white shirt, and a patterned tie. He is smiling slightly and looking directly at the camera.

公益社団法人郡山青年会議所 二〇一三年度 理事長立候補所信

二〇一二年度 副理事長 芝田銀平

しい時代に挑戦し、ともに未来を変えていきましょう。

（持続可能な組織へ）

【想いが伝わる発信】
インターネットやSNSといった情報発信ツールの進化によつて、自分の考え方や価値観に近い情報をA.I.が自動的にピックアップしてくれることが可能になりました。受け取り手にとって有益な情報と判断されなければ現代社会の膨大な情報のなかに埋もれてしまう一方で、「運動・活動を行うことで誰にどのような形で何を届けるか」といった理念や目的を常に重視してきた私たちにとってはチャンスの時代でもあるのです。私たちは単に運動・活動内容を発信するのではなく、運動・活動の理念や



目的等のより深化した情報を多くの人々に伝える共感型の情報発信を行つてていきます。それにより私たちの想いが多くの人々に伝わり、より大きな共感の輪となり広がっていくのです。

【地域を守り育てる】

地域の宝とは何でしょか。人それぞれ様々なイメージをもつていることと思いますが、いつの時代も一番の宝はその地域に住まう人々です。私たちは産官学民のあらゆる組織と協働して、人々が住まうこのまちを守り育てなければなりません。地球温暖化に伴い発生する激甚災害への対応、二〇五〇年に温室効果ガスをゼロにする脱炭素社会への取り組み、新型コロナウイルスへの対応など、このまちに関する問題は山積しています。私たちはこのまちを持続可能な地域としていくために、これらの問題に対し積極的に、そして地域社会を牽引する行動を起こしていくかなければなりません。また、地域を守り育てるためにはその地域に住まう人々の活気も重要となります。その活気を生み出すためには地域のパートナーと協働して、子どもたちにこのまちで描ける夢や希望を与える事業を行う必要があります。子どもたちが夢や希望を描ける持続可能な地域を創つていくことこそが、私たちの使命なのです。

【より必要とされる組織のために】

郡山青年会議所は二〇一三年に公益法人格を取得し、十年間といふ長きに亘り公益社団法人郡山青年会議所として歩みを進めてまいり

ました。青年会議所の三信条である「奉仕」・「修練」・「友情」は三位一体であり、そのどれか一つだけでもバランスが崩れると機能しません。多くのメンバーの在籍年数が三年以下となりまちの問題が多岐に渡り複雑化している現在においては、インプットが追いつかないままアウトプットを行う状態であり、奉仕と修練のバランスが大きく崩れたまま運動・活動を行うことを余儀なくされています。私たちは大きく崩れたこのバランスを取り戻すため、より自己成長が可能となる組織への検討を進めています。自己成長を重ねることでメンバー一人ひとりが問題意識を持つアクティビシチズンへと成長し、より地域に必要とされる組織へと進化するのです。

【結びに】

新型コロナウイルス感染拡大の影響は私たちの社会生活にも大きな変化をもたらし、変化した社会生活は決して元に戻ることはあります。アフターコロナという新しい時代において私たち青年は、かつて先輩方が荒廃した戦後の日本で「新生日本」の再建は我々青年の仕事です。私たちはその流れを多くの人々に共感していただき、大きな潮流としていかなければなりません。新しい時代の変革期に立つ今だからこそ、このまちに住まう人々のため、全力で運動・活動に取り組むことをお誓い申し上げ、立候補所信とさせていただきます。

JC出向歴		J C 歴		職 歴		学歴	住 所	会社名
二〇一〇年	二〇一五年	福島ブロック協議会	ブロック大会実行委員会	二〇一三年	入会	二〇〇八年四月	〒九六三一八〇七一 郡山市富久山町久保田字郷花四二二十	株式会社小田原屋(食料品製造業)
二〇一二年	二〇一二年	副理事長		二〇一六年	総務委員会	二〇一〇年一月	TEL ○一四一九四三一〇三〇〇 FAX ○二四一九四三一四七一九	役 総務部 部長
二〇一八年	二〇一七年	福島ブロック協議会	組織連携推進委員会	二〇一九年	青少年育成委員会 委員長	二〇一〇年二月	株式会社魚力	会社名
二〇二〇年	二〇一八年	東北地区協議会	ブロック大会実行委員会	二〇一〇年	指導力開発室 室長	二〇一〇年一月	二〇一〇年三月 学習院大学 卒業	芝田 銀平君プロフィール(一九八四年十一月一日生)



五月十五日(日)
郡山相撲場にて第二十五回わんぱく相撲こおりやま場所が開催されました。
本年は新型コロナウイルスがまん延している中での開催となり、開催 자체が危ぶまれる状況ではありました。が、「二〇名以上の方にご来場いただき、多くの子どもたちが懸命に相撲に取り組むことで礼節や努力、友情などを学ぶ大変有意義な大会となりました。

今回の大会における四年生、五年生、六年生の部の優勝者と準優勝者の子どもたちは続く六月十九日(日)に開催が予定されているわんぱく相撲福島ブロック場所へ出場されます。

今回事業の設営を担当された青年育成委員会委員圓谷紀幸君からは「目の前で繰り広げられる少年達の一戦勝負と一喜一憂する姿に感銘を受けました。これからも青年育成に尽力して参ります。」

同じく青年育成委員会委員杉島健太君からは「子ども達の緊張感を肌で感じる事ができる大会でした。全国大会でも自分の全力を出しきり、感動を与えて欲しいです。」

という感想や今後の意気込みがあり

気合が入る一戦! がんばれ!!



大会結果

【4年生の部】

- 1位 柴宮小学校 佐藤大心君 (さとう だいしん)
- 2位 柴宮小学校 深町 旭君 (ふかまち あさひ)
- 3位 薫小学校 宮田 周君 (みやた しゅう)

【5年生の部】

- 1位 柴宮小学校 鈴木歩夢君 (すずき あゆむ)
- 2位 柴宮小学校 片柳雄人君 (かたやなぎ ゆうと)

【6年生の部】

- 1位 日和田小学校 佐々木悠正君 (ささき ゆうせい)



五月十八日(水)
郡山市労働福祉会館にて第六十一回「久米賞・百合子賞」審査員初顔合わせ会が開催されました。本年の第六十一回「久米賞・百合子賞」にて審査員をお務めいたしました。審査員が決定しました。審査員長には溝井勇先生が選出され、本年の久米賞・百合子賞への展望をお話しさされました。

その後は開催要項や応募要項、審査方法について話し合いが行われ、より一層子どもたちの作品が良くなるような取組について意見が交わされました。

今後も多くの子どもたちに作品を通して自由な表現や想像力を創出できる機会となるよう精一杯取り組んでいきます。

第六十一回 「久米賞・百合子賞」 審査員初顔合わせ会

第一十五回 わんぱく相撲 こおりやま場所

ました。

今後も郡山青年会議所メンバーで多くの子どもたちが懸命に相撲に取り組み学び・気づきを得られる機会を創出しています。

五月十八日(水)
郡山市労働福祉会館にて第六十一回「久米賞・百合子賞」審査員初顔合わせ会が開催されました。本年の第六十一回「久米賞・百合子賞」にて審査員をお務めいたしました。審査員長には溝井勇先生が選出され、本年の久米賞・百合子賞への展望をお話しさされました。

× こおりやま謎解きウォークラリー

五月二十二日(日)

四季の里緑水苑にて二〇二二年度五月例会並びにSDGs × 郡山青年会議所×こおりやま謎解きウォークラリーが開催されました。今回の例会及び事業についてはメンバーやご家族が参加され、メンバーやご家族との交流を深める機会となりました。



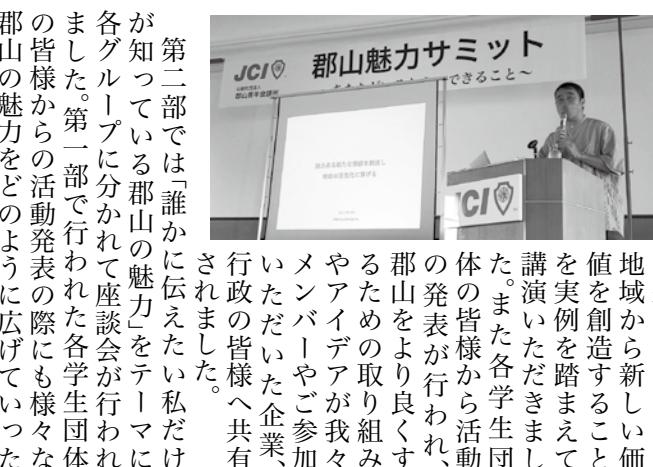
授与式執り行われ、遠藤祐介君が新たに私達郡山青年会議所のメンバーになりました。そして公益社団法人日本青年会議所共創グループ組織改革委員会高橋隆太委員長にお越しいただき「育LOM宣言・認定賞授与式」にて認定書の授与が行われました。



また例会では「二〇二二年度新入会員入会許可書授与式」執り行われ、遠藤祐介君が新たに私達郡山青年会議所のメンバーになりました。そして公益社団法人日本青年会議所共創グループ組織改革委員会高橋隆太委員長にお越しいただき「育LOM宣言・認定賞授与式」にて認定書の授与が行われました。



君からは「先輩方と一緒に郡山を盛り上げながら、私自身も成長していく」という力強い宣言があり、新しい仲間も加わり更に私たちの運動活動が発展していく機会となりました。



その後は総務委員会の新入会員メンバーによる「SDGs ももたろう」の演劇が開催され、子どもたちが分かりやすく楽しみながらSDGs を学べる機会となりました。

第二部では「誰かに伝えたい私が知っている郡山の魅力」をテーマに各グループに分かれて座談会が行われました。第一部で行われた各学生団体の皆様からの活動発表の際にも様々な郡山の魅力をどのように広げていった

内容となつており、メンバーやご家族の皆様、子どもたちの楽しみながら交流を交わす大変貴重な機会となりました。事業に参加した新入会員の遠藤祐介

君からは「子どもたちがおもちゃやお菓子の景品を獲得できる開催されきました。ウォークラリーで謎を解きながらキーワードを完成させ、最後に縁日で子どもたちがおもちゃやお菓子の景品を獲得できる開催されました。ウォークラリーが開催されました。

第一部では講師にヘルベチカデザイン株式会社代表取締役佐藤哲也氏をお招きし、関係各所との多種多様な関係を生みだすことでの地域から新しい価値を創造することを実例を踏まえて講演いただきました。また各学生団体の皆様から活動の発表が行われ、郡山をより良くするための取り組みやアイデアが我々メンバーやご参加いただいた企業、行政の皆様へ共有されました。

第二部では「今事業で多くの学生の方々や企業、団体の方々と新しい形の交流ができることが非常に良かった。今後は今事業での反省点もしつかりと検証し、今後の事業に繋げていかなければいけない」と思つた」といった感想をいただきました。

第三部では「今事業を通して発見した郡山の新しい魅力が、郡山をより良くするための更なる気づきの機会となりました。

郡山魅力サミット ～あなたがいるから、できること～

六月十九日(日)

郡山市の安積歴史博物館にて「郡山魅力サミット～あなたがいるから、できること～」が開催されました。各種団体、企業、学生、行政のご担当の方々が集い、郡山の魅力を見つめることから新たな価値を創造していくきっかけとなる事業となりました。

第一部では講師にヘルベチカデザイン株式会社代表取締役佐藤哲也氏をお招きし、関係各所との多種多様な関係を生みだすことでの地域から新しい価値を創造することを実例を踏まえて講演いただきました。また各学生団体の皆様から活動の発表が行われ、郡山をより良くするための取り組みやアイデアが我々メンバーやご参加いただいた企業、行政の皆様へ共有されました。

第二部では「今事業で多くの学生の方々や企業、団体の方々と新しい形の交流ができることが非常に良かった。今後は今事業での反省点もしつかりと検証し、今後の事業に繋げていかなければいけない」と思つた」といった感想をいただきました。

第三部では「今事業を通して発見した郡山の新しい魅力が、郡山をより良くするための更なる気づきの機会となりました。

第三部では「今事業で多くの学生の方々や企業、団体の方々と新しい形の交流ができることが非常に良かった。今後は今事業での反省点もしつかりと検証し、今後の事業に繋げていかなければいけない」と思つた」といった感想をいただきました。

第三部では「今事業で多くの学生の方々や企業、団体の方々と新しい形の交流ができることが非常に良かった。今後は今事業での反省点もしつかりと検証し、今後の事業に繋げていかなければいけない」と思つた」といった感想をいただきました。

第一十五回 わんぱく相撲 福島ブロック大会

六月十九日(土)

第二十五回わんぱく相撲福島ブロック大会が会津若松市のあいづ相撲場(会津総合運動公園)にて開催されました。

今回のブロック大会には、先日のこおりやま場所予選を勝ち抜いたわんぱく力士五名が郡山代表として出場されました。

四年生の佐藤大心君は先日開催されたこおりやま場所の全勝優勝に引き続き、ブロック大会も負けなしの全勝優勝を飾り、見事福島県の四年生横綱となりました。佐藤君は十月三十日(日)に東京都の両国国技館にて開催される全国大会へ郡山のわんぱく力士を代表しての出場となります。



【六年生の部】	柴宮小学校 柴宮 小学校	佐藤 大心 君(さとう だいしん)
	佐々木悠正 君(ささき ゆうせい)	片柳 雄人 君(かたやなぎ ゆうじん)
	柴宮小学校 柴宮 小学校	深町 旭 君(ふかまち あさひ)
	鈴木歩夢 君(すずき あゆむ)	



六月二十三日(木)

郡山市郡山公会堂にて六月例会が開催されました。本年

も六月に入り、折り返しに差し掛かつてきましたところで、理事長挨拶では各種

事業が実地での開催が多くなってきましたことに触れ、実際に足を運び参加することでも多くの学びがあり、幅広い視点を得るためにも積極的に参加していただきたいと話されました。

各委員会からの会務報告についても、今月に行われた対外の方々をお迎えした事業が二つ開催されたこともあります。開催したことでの効果や今後の動きに向けて各委員長からメンバーへお話をありました。

近年新型コロナウイルスの影響で開催ができておりましたが、今年は参画された会員のみでした。が、本年は参画された会員の皆様にご協力いただき、無事に開催することができました。

当日は天候にも恵まれ、ゴルフを通じてOBC会の先輩方との貴重な交流を図ることができ、現役メンバーにとつても大変貴重な時間となりました。



一一二二年度「じゃがいもカップゴルフコンペ」

六月二十九日(土)

第二十五回わんぱく相撲福島ブロック大会が会津若松市のあいづ相撲場(会津総合運動公園)にて開催されました。

今回のブロック大会には、先日のこおりやま場所予選を勝ち抜いたわんぱく力士五名が郡山代表として出場されました。

四年生の佐藤大心君は先日開催されたこおりやま場所の全勝優勝に

引き続き、ブロック

大会も負けなしの全

勝優勝を飾り、見事

福島県の四年生横綱

となりました。

佐藤君は十月三十日(日)

に東京都の両国国技館にて開催される全国大会へ郡山のわんぱく力士を代表しての出場となります。

矢吹ゴルフ俱楽部にて二二二二年度じゃがいもゴルフコンペが開催されました。



第五十一回 福島ブロック大会 in 一本松

七月二日(土)、七月三日(日)

福島県は二本松の地で第五十二回福島ブロック大会in二本松が開催されました。初日は岳温泉街にてニコニコ共和国が復活し、さまざまな地域の名産が振舞われる「たからいち」が開かれました。メンバーもご家族やメンバー同士で各お店を回りながら地域の特色に触れる

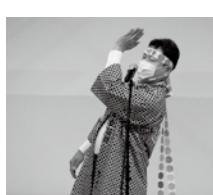


その他にはニコニコ共和国模擬大統領選挙、防災スタンプラリー、夜にはイルミネーション&夜散歩など、二本松市の誇る岳温泉街の魅力を最大限生かした設営がされておりました。当青年会議所から福島ブロック協議会組織連携推進委員会に出向されている中嶋拓歩君も防災スタンプラリー担当として活躍しておりました。各種ファンクションの設営に参加され活躍している姿も見ることができ、多くのメンバーにとっても楽しみながらまちの魅力を広げていく運動を体験ができるなど、メンバーの活躍を間近で見れる大変貴重な機会となりました。

その後に開催された大懇親会では、東北地区協議会が担当される東北青年会議所年会PRが行われました。当青年会議



所から東北地区協議会へ出向している二瓶一嘉君が進行を務め、柳沼勝恵君、高橋章太君、大越惇平君、三瓶卓也君も横断幕を持つてシュプレヒコールを行った。参加者一同の東北青年フォーラムへの想いが一つになつたファンクションとなりました。



二日目は二本松市民会館にて「アカデミー委員会政策発表」「記念式典」が開催されました。アカデミー委員会

政策発表では、それぞれの塾ごとにこの半年間アカデミー委員会で学んだ成果を基に、各地域の魅力の探求や発信などについて発表が行われました。当青年会議所からは坂本皓亮君、佐藤広幸君、杉島健太君が出向されており、三名のご活躍や成長や想いが伝わる大変貴重な機会となりました。

その後の記念式典では本大会の総評や福島ブロック協議会二〇二三年度会長候補者の発表、二〇二四年福島ブロック大会候補地の発表が行われ、二日間で多くの学びや気づき、今後の福島の発展を感じ取ることのできる大変貴重な大会となりました。



初日は(公社)日本青年会議所組織改革委員会へ出向されている新田義幸小幹事、圓谷紀幸委員の元へ応援と委員会への御礼に伺いました。お二人はベースにて各地

LOMの相談や運動PRでも活躍されていました。

委員会への訪問後は、地区ナイトに参

加し、(公社)日本青年会議所東北地区

協議会へ出向されている高橋章太事務

局次長、東北青年フォーラム運営委員会

二瓶一嘉副委員長、東北青年フォーラム

運営委員会大越惇平幹事、価値デザイン

会議三瓶卓也委員が地区ナイトの運営

や東北青年フォーラムのPRで活躍をさ

れていました。

二日目は岸田首相をお招きして政策提

言が行われ、今後の日

本の将来像を感じる

ことができました。そ

の後は(公社)日本青

年会議所まちのレジ

リエンス確立委員会

当しているセミナーに参加し、宇宙ビジ

ネスへの身近さや可能性を感じることができました。

夜は(公社)奈良青年会議所様との合

同LOMナイトが開催され、改めて姉妹

JCの絆を感じる大変貴重な時間とな

りました。その後はLOMナイト会場の

屋形船へ移動し、都市部の街並みを背に

様々な想いや意見を交わすことができ

ました。

最終日は、福岡市市長高岡宗一郎氏と

の対談やクロージングでは池田純氏の

講演が行われ、様々な学びを得る大変貴

重な時間となりました。

三日間の引率を担当した広報委員会

の菅野寛副委員長からは、

「岸田總理への提言書の中で、中小企業へ

の積極的投資を行つてほしいといった強

い思いを私自身社業、地域へ還元してい

きたいと改めて考える貴重な機会とな

りました。」

同じく広報委員会委員大原慶大君か

らは、「引率を担当したことで次回からのサ

マコンの流れ等はほぼ理解できたと思いま

ります。また今回の反

省点をしつかり受け止めて、来年以

降のJC活動に繋

げて行きたいと思

います。」

といった多くの氣

づきもある大変有

意義な遠征事業とな

りました。

二日目は岸田首相をお招きして政策提

言が行われ、今後の日

本の将来像を感じる

ことができました。そ

の後は(公社)日本青

年会議所まちのレジ

リエンス確立委員会

当しているセミナーに参加し、宇宙ビジ

ネスへの身近さや可能性を感じることができ

ました。

夜は(公社)奈良青年会議所様との合

同LOMナイトが開催され、改めて姉妹

JCの絆を感じる大変貴重な時間とな

りました。

最終日は、福岡市市長高岡宗一郎氏と

の対談やクロージングでは池田純氏の

講演が行われ、様々な学びを得る大変貴

重な時間となりました。

三日間の引率を担当した広報委員会

の菅野寛副委員長からは、

「岸田總理への提言書の中で、中小企業へ

の積極的投資を行つてほしいといった強

い思いを私自身社業、地域へ還元してい

きたいと改めて考える貴重な機会とな

りました。」

同じく広報委員会委員大原慶大君か

らは、「引率を担当したことで次回からのサ

マコンの流れ等はほぼ理解できたと思いま

ります。また今回の反

省点をしつかり受け止めて、来年以

降のJC活動に繋

げて行きたいと思

います。」

といった多くの氣

づきもある大変有

意義な遠征事業とな

りました。

二日目は岸田首相をお招きして政策提

言が行われ、今後の日

本の将来像を感じる

ことができました。そ

の後は(公社)日本青

年会議所まちのレジ

リエンス確立委員会

当しているセミナーに参加し、宇宙ビジ

ネスへの身近さや可能性を感じることができ

ました。

夜は(公社)奈良青年会議所様との合

同LOMナイトが開催され、改めて姉妹

JCの絆を感じる大変貴重な時間とな

りました。

最終日は、福岡市市長高岡宗一郎氏と

の対談やクロージングでは池田純氏の

講演が行われ、様々な学びを得る大変貴

重な時間となりました。

三日間の引率を担当した広報委員会

の菅野寛副委員長からは、

「岸田總理への提言書の中で、中小企業へ

の積極的投資を行つてほしいといった強

い思いを私自身社業、地域へ還元してい

きたいと改めて考える貴重な機会とな

りました。」

同じく広報委員会委員大原慶大君か

らは、「引率を担当したことで次回からのサ

マコンの流れ等はほぼ理解できたと思いま

ります。また今回の反

省点をしつかり受け止めて、来年以

降のJC活動に繋

げて行きたいと思

います。」

といった多くの氣

づきもある大変有

意義な遠征事業とな

りました。

二日目は岸田首相をお招きして政策提

言が行われ、今後の日

本の将来像を感じる

ことができました。そ

の後は(公社)日本青

年会議所まちのレジ

リエンス確立委員会

当しているセミナーに参加し、宇宙ビジ

ネスへの身近さや可能性を感じることができ

ました。

夜は(公社)奈良青年会議所様との合

同LOMナイトが開催され、改めて姉妹

JCの絆を感じる大変貴重な時間とな

りました。

最終日は、福岡市市長高岡宗一郎氏と

の対談やクロージングでは池田純氏の

講演が行われ、様々な学びを得る大変貴

重な時間となりました。

三日間の引率を担当した広報委員会

の菅野寛副委員長からは、

「岸田總理への提言書の中で、中小企業へ

の積極的投資を行つてほしいといった強

い思いを私自身社業、地域へ還元してい

きたいと改めて考える貴重な機会とな

りました。」

同じく広報委員会委員大原慶大君か

らは、「引率を担当したことで次回からのサ

マコンの流れ等はほぼ理解できたと思いま

ります。また今回の反

省点をしつかり受け止めて、来年以

降のJC活動に繋

げて行きたいと思

います。」

といった多くの氣

づきもある大変有

意義な遠征事業とな

りました。

二日目は岸田首相をお招きして政策提

言が行われ、今後の日

本の将来像を感じる

ことができました。そ

の後は(公社)日本青

年会議所まちのレジ

リエンス確立委員会

当しているセミナーに参加し、宇宙ビジ

ネスへの身近さや可能性を感じることができ

ました。

夜は(公社)奈良青年会議所様との合

同LOMナイトが開催され、改めて姉妹

JCの絆を感じる大変貴重な時間とな

りました。

最終日は、福岡市市長高岡宗一郎氏と

の対談やクロージングでは池田純氏の

講演が行われ、様々な学びを得る大変貴

重な時間となりました。

三日間の引率を担当した広報委員会

の菅野寛副委員長からは、

「岸田總理への提言書の中で、中小企業へ

の積極的投資を行つてほしいといった強

い思いを私自身社業、地域へ還元してい

きたいと改めて考える貴重な機会とな

りました。」

同じく広報委員会委員大原慶大君か

らは、「引率を担当したことで次回からのサ

マコンの流れ等はほぼ理解できたと思いま

ります。また今回の反

省点をしつかり受け止めて、来年以

降のJC活動に繋

げて行きたいと思

います。」

といった多くの氣

づきもある大変有

意義な遠征事業とな

りました。

二日目は岸田首相をお招きして政策提

言が行われ、今後の日

本の将来像を感じる

ことができました。そ

の後は(公社)日本青

年会議所まちのレジ

リエンス確立委員会

当しているセミナーに参加し、宇宙ビジ

ネスへの身近さや可能性を感じることができ

ました。

夜は(公社)奈良青年会議所様との合

同LOMナイトが開催され、改めて姉妹

JCの絆を感じる大変貴重な時間とな

りました。

最終日は、福岡市市長高岡宗一郎氏と

の対談やクロージングでは池田純氏の

講演が行われ、様々な学びを得る大変貴

重な時間となりました。

三日間の引率を担当した広報委員会

の菅野寛副委員長からは、

「岸田總理への提言書の中で、中小企業へ

の積極的投資を行つてほしいといった強

い思いを私自身社業、地域へ還元してい

きたいと改めて考える貴重な機会とな



公益社団法人
郡山青年会議所 7月例会
Just keep going!
やさしさあらわめ!

年次年度理事長候補者の発表が行われる大切な日となっており、多くの現役メンバーとOB会の先輩方が次年度理事長候補者の応援に駆けつけていただきました。

冒頭久保田理事長

からのご挨拶では、

先月例会でのお話に

続き、JC運動・活動

をこの半年行つてき

た中での慣れや慣習

の話があり、今一度

役職を引き受けた際

の自身の当時の想い

や考えなどを思い出

して、これから半年を過ごしていただきたい旨のお話がありました。

その後は各委員会からの会務報告、各

出向者からの出向者報告があり、6月か

らの各種事業や遠征事業の御礼やこれ

からのメインとなる事業のPRを行わ

れ、各委員会のメンバーもPRに参加す

るなど各委員会の熱

意も伝わり、事業や

大会参加への意欲が

より一層高まつたこ

とと思います。

出向者報告については、七月の二つの

遠征事業で各委員会

が各自のファンク

ションを担当してい



七月二十一日(木)
郡山ビューホテルアネックスにて7月例会が開催されました。7月例会では毎年次年度理事長候補者の発表が行われる大切な日となっており、多くの現役メンバーとOB会の先輩方が次年度理事長候補者の応援に駆けつけていただきました。

冒頭久保田理事長

から

の

お

話

に

続

き

JC

運

動

・活

動

を

こ

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

半

年

を

過

ご

して

、こ

れ

か

の

8/20(土)
開催

参加者募集

体験型防災アトラクション LIFE LINE



NO・606号

●発行所事務局 福島県郡山市中町5-17 中町スペース3F 電話024-932-12289

●発行責任者／理事長 久保田雄大

●編集責任者／広報委員会委員長 武田淳

※無断転載禁止

自由参加

防災体験キッズ ワークショップ

カルチャーセンターアリーナ内(会議室・展示室)



02

AED実演講習、 コロナ禍での心肺蘇生法

AEDを使えば助かる命があります。必要なのは、あなたの少しの勇気とあなたが行う救命活動です。命を救うためには、救急隊が到着するまでの「あなた」の応急手当が大切です。AEDや心肺蘇生について学び、万が一に備えた知識や技術を習得することができます。



03

緊急通報レクチャー

緊急時の通報をするときには、正確な情報を伝えることがより重要です。災害だけでなく事件や家事などを見かけた緊急時に、落ち書きで通報や連絡をする能力を身につけましょう。



01

過去を知る パネル展示

将来起こることが予想される自然災害への備えは過去に生じた災害を知ることから始まります。2011年の東日本大震災後の郡山市内の様子と、2019年の台風19号による郡山市内の水害状況が分かる写真や資料を会場内に展示します。



04

家具の固定方法・ 防災グッズ制作

震災時の死者の約9割は、住宅の倒壊や家具の転倒が原因で亡くなっています。家具や家電の正しい固定方法を学び、おうちでの防災減災につなげましょう。また、身近なもので防災グッズを作る知識を身に着けて、周囲を助ける存在になりましょう。

